

第8節 地域の魅力発信と地域活性化事業（奈良県三郷町）

嶋田博子（京都大学公共政策大学院 教授）

2021年9月29日（水）、「地方創生SDGs推進による新型コロナウイルスの影響への取組事例」に係る現地ヒアリングを行った（訪問者：鈴木敦子委員、上田紘士委員、嶋田）。先方対応者は奈良県生駒郡三郷町総務部まちづくり推進課の谷文夫課長、笠本由香理主査、環境整備部ものづくり振興課大塚慎也主任の3名である。

1. 事業概要

地域活性化のために、吉本興業と契約した地元映画の作成を進めている。昨年度中に映画を完成させる予定であったが、新型コロナウイルスのために撮影が進まず、令和3年度秋に撮影を行う予定となっている。（資料、写真）

2. 事業プロセス

（1）背景事情

2020年初頭からのコロナ禍で修学旅行にも行けず、体育祭もない中学生たちのために、何か代替りの思い出づくりができないかと思ったこと、観光客など来訪者が落ち込む中で町の活気づけが必要だと考えたことという2つの理由で、「地方の魅力発信・地域活性化プロモーション事業」として地元PRのための映画作成に向けた（新型コロナウイルス感染症対応）地方創生臨時交付金を申請した。昨年度で終わるはずだったが、その後新型コロナウイルスが猛威を振るい、秋の撮影ができなかったため、2か年計画となっている。

事業申請の契機はSDGs未来都市に選定されたことであるが、そもそも未来都市申請のきっかけとなったのは町の子ども議会による宣言である。子ども議会は、5－6年くらい前から毎年行われている小学生代表による会議だが、2017年の台風浸水による大被害を受け、「子ども議会として環境宣言をしよう」という提言があった。町としてもSDGsへの意識は持っていたが、それに先行して子ども議会がSDGs環境未来都市宣言を出したので、背中を押される形で、SDGs未来都市に応募した。

SDGs未来都市への申請時点では町として先例のない作業だったので、白地から提案書を書いていったが、同都市への選定が、魅力を外に発信するツールとしての今回の「地域の魅力発信と地域活性化事業」につながった。

日本遺産やSDGsなどさまざまな課題に連携して取り組んでいこうという流れが既があり、地域を掘り起こしていこうという土壌もある中、ものづくり振興課が中心となっていくつかの案をボトムアップで提案し、町長が映画作成と

いう事業を決定したという形である。

(2) 役割分担

吉本興業とは、それまでも芸人を呼ぶなどイベント会社を通じた事業で縁があったので、連携は先方からの提案で決まった。

当事者としては当課と吉本興業の二者で完結しているが、観光協会が吉本興業との契約主体となっているので、信貴山観光協会や履物産業などの意見はそこから聞いている。農林業や商工関係とは当課が従来からつきあっているもので、意見をうまく聴取しながら進められている。また、今年度から、日本遺産を扱ってきた教育委員会も当課に合流し、7名体制となった。

吉本興業側はビジネスなので⁴⁸、単なる地域PRではなく、沖縄の映画祭に出品することも想定した作品のクオリティとすることを目指し、監督主導でストーリーを作っている。もちろん町からの意見は出す。歴史背景や、雪駄づくりなどの地場産業、水運の大和川への出入り口であったことなど、どう表現できるかという話をしている。監督にもこだわりがあるので、露骨な宣伝ではなく、よくよく見たときにそれらが表現としてつながるようになればと思っている。

(3) 具体的事業内容

三郷町は、平城京から見て西方（白虎）に属するので「秋」のコンセプトとなる⁴⁹。さらに万葉歌で詠まれる内容から、大和の西の出入口にあたる龍田大社⁵⁰には、大和を「発った」人がまた帰ってくる故郷という由来もある。それにふさわしい「絵」を撮るため、11月に中学校の三年生を出演させることにして、教育委員会との調整も進めていたが、結局、コロナ罹患者が出てしまってできなかった。子供たちはこの計画をまだ知らない。改めて今年11月7-9日に撮り直す予定で、10月から保護者への説明を行って同意を得ることにしている。11月5日に中学校での撮影会に合わせて記者発表とクラウドファンディングの立上げを行う。

⁴⁸ 同社「地域発信型映画」事業の1つ。

http://www.yoshimoto.co.jp/sumimasu/chiiki_eiga/ (2021年11月4日最終閲覧)

⁴⁹ 中国の神話によれば、方角を司る四霊獣（東・青龍、南・朱雀、西・白虎、北・玄武）があるとされ、司る季節はそれぞれ春・夏・秋・冬（広辞苑参照）。平城京の西に位置する三郷町は、万葉の時代から大阪と奈良を結ぶ交通の要所として栄えた。なお、龍田山は古くから紅葉の名所で「秋の女神が住む山」と信じられてきたため、平城遷都1300年祭記念事業を機に、イメージキャラクター「たつたひめ」が誕生した（三郷町HPより）。

⁵⁰ 歴代の朝廷からも信仰された神社で、祭神は天御柱大神（志那都比古神）と国御柱大神（志那都比売神）（別名：龍田神・龍田風神）。社伝によれば、崇神天皇の御代に凶作が続いた時、夢でこの風神のお告げをうけて西方に創建された。五穀豊穰・航海安全に靈験ありとされ、毎年行われる例大祭風鎮大祭は天武天皇（675年）に始まると伝えられる（同上）。

完成後の映画は、地域の人たちに知ってもらうために図書館での定期上映会を考えている。また、外に発信する目的で、NTTの光テレビでの発信計画があり、沖縄映画祭⁵¹に出品し、そこで賞を取ることを想定した凱旋上映の予算も計上している。このほか、龍田大社が日本遺産の構成文化財であることから、文化庁のプラットフォームも使っている。外から見た町のアイデンティティをはっきり打ち出す必要があると考えている。

(4) 過程での問題点

事業の過程でもっとも難しかったのは教育委員会関係との調整である。学校スケジュールがコロナ禍によって通常よりも厳しくなる中で、カリキュラムに影響させない調整が必要となった。学校にとっても発信メリットがあることを説明することが重要となった。また、粘り強く交渉したこと、教育委員会とは日本遺産等で共同する事業があったこととで最終的に理解が得られた。

3. 事業実施による成果

(1) これまでの企業連携

まちづくりに関しては企業と組む場合がほとんどだが、委託や協定など方式は様々である。これまでも橿原市も巻き込んだ3幸プロジェクト⁵²として龍田古道を取り上げ、NTTドコモやJTBと連携した観光推進事業を進めてきた。このプラットフォームを使った発信や、JTBツアー化も予定していたのだが、コロナ禍で中断してしまった。

また、日本遺産に関する協議会については、商工会や観光協会、ボランティア団体なども入っているが、直接企業が入ると契約ができなくなるので、そこは工夫している。農産物の販売についてはNTTドコモと契約し、農業公園と信貴山とを組み合わせたツアーを作ったりもしている。

(2) 今後に向けた発展

SDGs 未来都市計画策定の過程で、それまで単独でやっていた事業をジョイントで行える効果が生じていた。従来も、観光系で「WEST NARA」のように5町1市がまとまって広域事業を行うなどの個別の取り組みはあったが、一つのプラットフォームから様々な事業を企画して創出するという動きはそれまではなく、将来に向けてよい礎になったと思う。今回の事業も、そうした部門横断型

⁵¹ 2009年から始まった毎年4月に沖縄で行われる映画祭で、吉本興業協賛。

⁵² バーチャルとリアルを融合させた3幸（観幸・健幸・振幸）プロジェクト。両市町に共通する観光資源「龍田古道」にスポットを当てバーチャル空間で古道を歩くアプリを配信し、ユーザーに「三郷町への旅」まで誘導し、実際に古道を観光ルートとして歩いてもらう。交流人口の増加を図るとともに消費拡大をねらう。

連携の礎が築かれていたことで円滑に進められた。

この地域はもともと洪水や地滑りが多く、亀の瀬では「もうすべらせない」と称して国交省が直轄で整備をしており、橿原市とも大和川での広域連携を進めるなど、治水、防災、環境を統合した取り組みにつなげることができる。また、日本遺産である山川信仰の発祥の地・龍田大社から信貴山観光につないでいく、法隆寺経由で世界遺産につなげていく、自転車月間では堺市からの走行ルートをつなぐ、さらには大阪万博に結び付けるなど、様々な今後の方策が考えられる。もともとこの地域は平城京の時代から大和（奈良）と河内（大阪）との結び目としての立ち位置にあり、今なおそれを活かして、時空を超えたつながりを実現できるのではないかと思う。

4. 自治体職員の育成

町主催の研修としてIT、条例、法務などのテーマでは実施しているが、こうした事業企画のための特段の研修はない。担当が実務レベルで文化庁の日本遺産塾や県、JIAMなどの研修に手を挙げる機会があり、希望すればこうした研修が受けられるものの、基本はOJTである。

130人ほどの組織で、途中退職者も少なく、風通しがよい雰囲気があると思う。なお、県への一年間の派遣はあるが、周辺自治体との人事交流はない。

5. 総括

事業としては新規であるが、普段から多方面の関係者との連携が進んでおり、職場の風通しも良いため、必要性を感じた時に実現に向けた手段を考えるとこの姿勢が自然体で根付いていることが伺えた。

SDGs 未来都市宣言が子ども議会の提言に背中を押されたためというのも事業としては理想的な展開と言えよう。現地調査後、映画撮影現場の一つとなる中学校の外景の写真を撮っていた時、たまたま通りかかった中学生たちと立ち話をしていると、「子ども議会の議員として必要な街灯設置を要求した経験がある」という話が自然に出てきた。必要があるなら議論して働きかけ、自治体側も実現に向けて努力するという好循環が生まれており、良質の民主主義体験をしながら育つ子供たちの将来が楽しみになってくる。

同時に、万葉集の時代からの歴史が地元の誇りとして根付いている土地柄であり、事業を考える際にも、地域や所掌の枠を超えた壮大な発想が可能になっている。他の自治体においても、地元の歴史を住民間で共有することで、従来の時間軸・空間軸にとらわれない連携が可能になるのではないかという印象を受けた。

①



②



③



④



上から ①町役場正面玄関の「SDGs 未来都市」表示、②同・「たつたひめ」、
③三郷町立中学校、④龍田大社（映画撮影予定場所）

11月5日 三郷町 Facebook より転載

【(映画)で三郷町の魅力を発信したい!クラウドファンディングで資金募集!!】

目標は「#地域活性化」

町の歴史や文化を取り入れた映画を製作し地元を盛り上げたい!という熱い想いを実現すべくプロジェクトを立ち上げました!!第14回沖縄国際映画祭への出品を目指し制作中です!

制作は吉本興業(株)にお願いし、寄付受付は「さとふるクラウドファンディング」にて本日よりスタートします!..皆様にお楽しみいただける素敵な作品をお届けいたしますので是非ご協力ください!☺

※集まった寄付金は、映画のクオリティ向上のための施策や映画祭への出品、映画の公開費用に活用されます。

寄付方法：https://www.satofull.jp/projects/business_detail.php...

目標金額：2,000,000円 ご支援の程、よろしく申し上げます!!!

【三郷を舞台に映画!三郷町×吉本興業の制作発表記者会見が行われました!!】

三郷町を舞台にした映画の制作発表記者会見を三郷中学校で行いました!!

この映画は、まちの魅力を全国に伝え、地域をもっと元気にしたい!という地元への熱い想いを、伝える地域発信型映画プロジェクトです😊

撮影はすでに町内各所で行われ、出演者の方々には三郷町の風景のなかでの心温まる物語を、魅力たっぷりに演じていただいています。この映画は三郷町が協力し吉本興業(株)が製作します。

会見には森宏範(三郷町町長)、森本徹(三郷町立三郷中学校校長)、立川晋輔監督、太田夢莉(吉本興業)、辻凧子(株式会社DASH)、チュートリアル・徳井義実(吉本興業)が出席しました。この映画は、第14回沖縄国際映画祭への出品も予定されています。

映画出演者

市川柚・・・辻凧子(株式会社DASH)

市川千恵子・・・太田夢莉(吉本興業)

市川幸一・・・虎牙光輝(株式会社ボイス/Voice Music Entertainment)

市川実・・・やなぎ浩二(吉本興業)

市川実奈美・・・太田翔子

市川範武・・・武田幸三(吉本興業)

岸田直人・・・チュートリアル・徳井義実(吉本興業)

監督・・・立川晋輔

脚本・・・大石れいか(よしもとライターズアカデミーウエスト)

制作協力・・・源田企画株式会社

製作・・・風の中のピアノ（仮）製作委員会

